

定着運営実施案

2019.1.31

基本方針（決定事項）

- 1) リーディングプログラムを全学の国際共創大学院学位プログラムとして位置づけ定着させる。
- 2) 情報科学研究科に正規科目として定着させる。
- 3) 高度副プログラムとして全学に普及させる。

具体実施案

- 1) 平成 31 年後以降のカリキュラムなど

(ア) 教員

プログラム責任者（尾上情報科学研究科長）、コーディネータ・教務委員長（清水（BI））、教務副委員長（原先生（MM））、産学連携委員長（若宮先生（BI））

幹事 6 名（清水、原、若宮、橋本先生（IS）、土屋先生（IS）、伊野先生（CS））

企業連携・審査関係委員（井上先生（CS）、尾上先生（IS）、藤原先生（MM）、村田先生（NW）、谷田先生（IPS）、増澤（CS）、平岡（生）、深川（生）、石黒（基）、細田耕（基礎））

専攻 1 名（准教授か助教 6 名）

IPS 谷田研：小倉先生、CS 増澤研：首藤先生、IS 尾上研：谷口先生、NW 村田研：荒川先生、MM 藤原研：安永先生、BI 松田史研：岡橋先生

(イ) 特任教員 3 名：教務（細田先生）、産学（マハズーン先生）、海外連携（岩崎）

(ウ) 職員 5 名：徳野、谷川、井汲、嘉村、森田（生命）、松田（基礎工）

(エ) 履修生定員 20 名＋副プログラム 10 名＋情報履修 10 名

(オ) 平成 31 年度については全カリキュラム、科目を継続する。将来、運営体制が縮小すると判断した場合の運営については研究科の科目との読み替えなどを行って負担を減らし定着させていく。

(カ) 選抜 原 特任 3 名、各研究科選抜委員（企業連携・審査関係委員より研究科一名以上参加）

(キ) 科目担当者（シラバスなどに明記）

1 年次

- ① 創出論 → 原、橋本（連絡）、細田、外部講師→イノベ創出論（情報科目）
- ② 融合研究→ 企業インタビュー（イノベーション入門） 若宮、土屋（連絡）、細田、マハズーン
- ③ 基礎論Ⅰ、Ⅱ→清水、細田_生命、マハ_ロボ、岩崎_情報数理、Ⅰ（小倉、首藤、谷口）、Ⅱ（荒川、安永、岡橋）
- ④ マシンラーニング→ 情報科学研究科の適当な科目 開講せず

⑤ 合宿（熟議セミナー）→清水、原、若宮、特任 3 人、メンター

⑥ 研究室ローテーション→原、伊野（連絡）、細田

⑦ Pre-QE→ 原、特任、メンター

(ク) 2 年次

① 融合領域研究→ アウトリーチ、清水、細田、土屋（連絡）

(ケ) 3 年次

① 実践演習→ 企業担当者、若宮、土屋（連絡）、マハズーン

② 融合領域 PJ 研究→ 清水、細田 RQE で審査

③ 国内インターンシップ、海外インターンシップ、起業→若宮、土屋（連絡）、マハズーン、**

④ 融合領域 PJ PI 研究→ 清水、特任 3 人、メンター、書面審査

⑤ R-QE → 清水、特任 3 人、メンター

(コ) 5 年次

① 最終審査 →清水、原、若宮、特任 3 人、メンター、各研究科（企業連携・審査

査関係委員より研究科一名以上参加）

② 修了要件 →維持

1. 英語の学位論文

2. 英語で主筆の掲載論文

3. 融合研究成果（論文、国際会議発表）

4. 英語のプレゼン（最終審査）

5. TOEIC730 点

6. GPI

7. 40 単位

(サ) その他（学年共通）

① 学生アドバイザー→ 最終審査自由参加に変更。産学連絡協議会で面談。

② 産学連絡協議会→維持

③ 海外短期渡航→お金があれば維持

④ GPI→維持

⑤ 英語トレーニング→大学本部に移行

(シ) 高度副プログラムとして全学展開、情報科学研究科正規科目定着

長期的視野

(ス) HW のコンソーシアムについて検討する。産学連携委員長検討項目

- ① 教員、履修生、修了生、企業
- ② アドバイザ：小粥先生、国際アドバイザリ委員
- ③ 大阪大学の会、3 研究科の会？
- ④ 企業からの共同研究、資金提供受け皿、学生の紹介窓口などを行う
- ⑤ HW の学理追及、社会に還元、人的 NW 形成を目的とする
- ⑥ 年に一度はイベントを開催（研究発表、マッチング、インターン説明など）合宿
- ⑦ IT を活用して情報交換の仕組み

(セ) コア履修生以外の参画 教務副委員長検討項目

- ① 科目ごとに履修を可とする学生を受け入れる。毎年 20 人程度選抜方法
- ② 奨学金、必須単位、アドバイザリ制度、研究費 PI 権利、学生活動幹事権利、HW 学位はない。
- ③ 融合研究への参加を認める（単位は出す）。年度初めに参加の意思を確認する。
- ④ 年に一度のイベントには参加必須（（合宿）⑥）
- ⑤ D に移る段階でコアと非コアを移動できる。選抜
- ⑥ コア履修生以外の受け入れのひとつとして、平成 31 年度大学の高度副プログラムを利用を検討する。（高度副プログラムは研究科から申請（情報科学研究科より））（細田一）8 単位、修了証あり

(ソ) 研究科への定着について 教務委員長

- ① 情報科学研究科の正規カリキュラムの中に HWIP を定着）

(タ) 広報について 産学連携委員長

- ① 上記の基本方針にのっとって来年度の新入生に対して選抜応募のための広報を実施する。
 1. 説明会
 2. 履修要項
- ② 企業とのマッチングイベントを 12 月開催の方向で検討いただく
 1. 履修生、修了生の良さを担当企業、担当以外の企業にも見せるマッチングイベント開催を計画
 2. 履修生の研究、融合研究を紹介その他
- ① 企業からの共同研究の受け入れ検討
 1. 担当教員の責任の明確化が必要
 2. 研究科で受け入れる（国際共創で受け入れるが会計は情報）
- ② クラウドファンディングについて

1. 委任経理金として受け入れ可能
2. 研究科で受け入れる（国際共創で受け入れるが会計は情報）